

科技高いきもの記

Vol.3 2020.7.10

佐藤龍平

マングローブを食べる蛾

ヤエヤマヒルギアシブトヒメハマキ



西表島のマングローブから羽化したヤエヤマヒルギアシブトヒメハマキの成虫

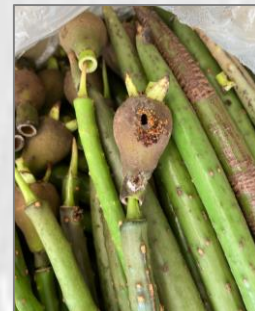


別角度から



拡大すると、細かな鱗粉が非常に美しい。

6月15日に西表島から届いたヤエヤマヒルギの散布体の中に、穴が開いているものがいくつか見られた。穴からは木くずのような茶色の粉がたくさん出ていて、いかにも虫が潜んでいそうな雰囲気だ。ただ、この穴は虫が脱出した際に開けた穴かもしれないので、すでに中には穴をあけた犯人はいないかもしれない。いないと思うけど見てみるか、という軽い気持ちで果実を1つ割ってみることにした。すると、元気に動き回る**2cmほどのイモムシ**が飛び出した。あまりにも元気がよく飛び出すものだから、びっくりして思わず割っていた果実を放り投げてしまった。あー驚いた。その後、新聞紙の上でもうねうねと高速で走り回り、暗い場所に逃げ込んでいった。「おそらく蛾だろう」と虫に詳しい生徒に教えてもらったので、その予想が当たっているかどうか、しばらく様子を見てみることにした。



穴の開いたヤエヤマヒルギの果実

6月20日に蛹化し、7月6日には無事に羽化した。予想通りあの幼虫は蛾であった。1.5cmほどの小さなハマキガの仲間で、調べてみると「**ヤエヤマヒルギアシブトヒメハマキ**」というらしい。やたら名前が長いぞ...

名前のおりヤエヤマヒルギを専食する種であり、**西表島と石垣島にしか生息していない**。見た目は少々地味だが、マングローブでしか育たない珍しい蛾が、遠路はるばる東京までやってきて無事に成虫にまで育ててくれて大変うれしい。(蛾にとっては大迷惑な話だが)。ここだけの話だが、観察していたらうっかり飼育箱から逃げてしまい、生物室内を飛び回ってしまった。「まずい、国内外来種になってしまう！」と焦って追い掛け回した。(無事捕獲しました。)

ところでこの蛾の生態を調べていたら、面白い記述を見つけた。この蛾の幼虫は、散布体の部分(棒状の緑の部分)にまで侵入し、**散布体が樹から落下しないように糸で固定してしまう**のだそうだ。散布体を落として子孫を残したいマングローブ植物と、エサ資源を確保するために散布体を落とさないように固定したい蛾の間のせめぎ合いがなんとも興味深い。落下しないようにくっつけてしまうなんて、どうして蛾は将来散布体が落下することを知っているのだろうか...



果実内にいた幼虫(6/15)



幼虫が侵入していた部分を割ると、羽化したあとの蛹殻糞がぎっしり詰まっていた。

